

教育の自由と子どもの未来のために

凛とした闘いを！

1 憲法違反の「君が代条例」と「教育基本条例案」

今、大阪でハシズムという怪獣がデモクラシーと人権を食い殺そうとしています。「今の政治に独裁は必要」「教育とは2万%強制」という橋下徹知事（当時）を代表とする大阪維新の会は、6月に日の丸の常時掲揚と府下の教職員に君が代の起立斉唱の義務を課す条例を多数決の暴力により府議会で可決成立させました。憲法第19条の思想・良心の自由の保障を蹂躪する憲法違反の条例です。

これを受けて9月の府議会で処分規定を含む教育基本条例案を提出し、12月の本会議での議決をたくらんでいます。大阪市議会ではこの条例を9月30日に少数否決しましたが、11月の堺市議会に再び提案されようとしています。

2 高校の学区制廃止と競争のエリート教育

教育基本条例案は、選挙で選ばれた知事や市長が民意を反映しているとして、教育目標を定め、教育委員会が具体的な教育内容の指針を出し、学校長は具体的・定量的（国公立大学現役何人合格等の）目標を設定し、学校運営を行うとしています。これは戦時中の反省から教育基本法で「**教育は不当な支配に服することなく**」と教育への政治介入を禁止した法令違反であり、しかも、府・市の教育の「最高規範」とし、憲法第98条の「憲法を最高法規とする」という条規に反するものであります。

その教育目標は、愛国心の育成とグローバル化の中、世界標準で競争力の高い人材育成であり、そのための競争と成果主義の導入です。

府立高校は学区制を廃止し、大学進学のエリート校をつくり、3年連続定員割れの高校は統廃合する。小・中学校の学力テストの結果を学校別にホームページで公表する。大阪市案では小・中学校の隣接区域やブロックでの選択制を取り入れ、点取り競争を煽るものになっています。府下41市町村教育長が反対を表明

しています。人間を「人材」、つまり資源、手段と見て、愛国心で日本人意識を育て、エリートの頭脳の海外流出を防ぎ、企業戦士に育てる企みに他なりません。

3 上意下達で教師も親も校長の奴隷になる危険

学校長が決める教育方針に反する意見をのべる教職員は学校運営に非協力として、府下で最下位の人事評価を受け、2年連続すると免職の危機にさらされます。まさに旧軍隊の「上官の命令は朕（天皇）の命令と思へ」という様な官僚統制で、教職員は奴隷とされてしまいます。

保護者へは子どもに学校生活に必要な社会常識や基本的な生活習慣を身につけさせる義務や部活動への参加、学校協議会での教科書の選定や教員の人事評価への参加が求められます。学校への親としての要求は不当な様態だと学校長が一方的に判断すると「モンスターペアレント」として拒否されるのです。これに対し、府立高校PTA協議会は見直しを要求しています。

4 ウソを正当化する「ハシズム」を撃とう！

橋下（前）知事は「教育の政治介入ではない。決められたことをキチンとやりましょうという服務、マネージメントの問題だ。」とか「保護者の声を学校に反映させるのが狙いだ。」と誤魔化しています。彼は自分の著書『まっとう勝負！』

（小学館刊）で「政治家ちゅうのは権力欲、名誉欲の最高峰だよ。自分の権力欲、名誉欲を達成する手段として、いやいや国民のため、お国のために奉仕しなければならぬわけよ。ウソをつけない奴は、政治家と弁護士にはなれないよ！」

「ウソつきは政治家と弁護士の始まりなの！」と人権を護る弁護士でもある立場なのに豪語しています。ウソをつくものよりも騙される方が悪いというわけです。ナチズムのゲッペルス宣伝相は「嘘も百回つけば真実となる」といいました。

大阪維新の会の維新は「維れ新たなり」と革新を意味しますが、「維」は「しほりつける」と言う意味もあるのです。嘘で「ハシズム」といわれるファシズムに新しく縛りつけられることを拒否する私たちの闘い、職場討論や家族対話に本冊子が活用されることを期待しています。 2011年11月22日

「日の丸・君が代」強制反対ホットライン・大阪事務局代表 黒田伊彦